

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)京都堀川五条ホテル計画

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				3.4	0.15	2.8	1.00	3.1
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2.1 開口部遮音性能				5.0	0.40	3.6	0.40	
1.2.2 1 開口部遮音性能				5.0	1.00	5.0	0.30	
1.2.2 2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1.1 室温				3.0	0.50	3.0	0.50	
2.1.2 1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2.1.2 2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
2.1.3 3 ソーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境								
3.1 屋光利用				2.0	0.25	3.3	1.00	2.7
3.1.1 屋光率				1.8	0.30	4.2	0.30	
3.1.2 1 屋光率				1.0	0.60	5.0	0.60	
3.1.2 2 方位別開口				-	-	-	-	
3.1.3 3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.30	
3.2.1 屋光制御				1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.1	0.25	3.1	1.00	3.1
4.1.1 化学汚染物質				3.0	0.50	3.0	0.63	
4.2 換気				3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2.1 換気量				3.5	0.30	3.3	0.38	
4.2.2 1 自然換気性能				4.0	0.50	4.0	0.33	
4.2.2 2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33	
4.2.3 3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	2.6	1.00	2.7
1.1.1 広さ・収納性				3.0	0.40	2.0	0.60	
1.1.2 1 広さ・収納性				-	-	1.0	0.50	
1.1.2 2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	0.50	
1.1.3 3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.5	0.40	
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)				-	-	4.0	0.50	
1.2.2 1 広さ感・景観 (天井高)				-	-	-	-	
1.2.2 2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
1.2.2 3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	-	-	
2.1.2 1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2.1.2 2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2.2.2 1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2.2.2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
2.2.2 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
2.2.2 4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
2.2.2 5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
2.2.2 6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.20	-	-	
2.2.3 上位3種がB以上、Eは不使用				3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.0	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり					-	-	1.0	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観条例に掛かり許可を得ている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.88	4.2	0.20	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.81	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				自動水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	LGS、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				防水工事のプライマー	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				LCCO ₂ 排出率=84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮					2.2	0.33	-	-	2.2
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストの過半を満たす、広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素量削減に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる